

第三回全国大会出場者による全国大会感想

北海道大会代表：旭川東高校 重綱孝祐さん

始まりは1通の手紙でした。クイズ研究会のOBの先輩からの1通の手紙。そこには、「エコノミクス甲子園にてよ!」といった指令が書かれていたのです。

「エコノミクス甲子園」。聞いたことがない……。それもそのはず北海道で初開催だったからです。

とにかく、経済、金融については興味があったけどよく知らないという私は、とにかくおもしろそうということで、参加を決意し、部活で一緒に塩越を誘い、早速金融知力プログラムで、勉強を始めました。でも……。わからない。

そんなこんなで地方大会。私は、ほとんど勉強ができておらず、筆記も早押しも塩越だのみ……。ほんとに情けない相方でごめんと、切に謝りたいです。でも、彼はやってくれました。北海道優勝。夢にも見ていなかった。それから過去問をあさり対策。でもやはり私の頼りなさは相変わらず。

そして日は過ぎ、交通の関係で東京に1日前のりした私たちはホテルで夜通しの過去問演習。そして、24日の朝を迎えました。

12時、東京駅前丸の内ビル1F。ここから戦いは始まりました。浅草観光、もんじゃ屋では開成と浦和と同じテーブルというクイズ研野郎全開でもんじゃを食べ、貨幣博物館では写真を撮りまくり、そしてレセプションが行われ、宋さんの講演に続きパーティ。ここまでの出来事で、すでに何人かと仲良くもなれたし、レセプションもとても楽しかったので、全然これから全国っていう実感がありませんでした……。そうここまでは。

そして出された発表。プレゼン資料を作れ。おかげで一睡もせず、ラジオ体操の時間を迎えました。そして、第一ラウンド筆記、第二ラウンド〇×と順調にいくも、第三ラウンドプレゼンクイズでやらかしてしまいました……。その後も札勘クイズでもやらかし……。結果13位。自分のふがいなさをとても感じました。

全体的に、やはり、過去問演習だけではだめだなと思いました。しかも、昨今世界情勢の時事問題も多く出されていたことから、さらにそのことを痛感しました。

今回この「エコノミクス甲子園」に参加して得られたものがたくさんあります。経済の知識が広がり、経済について、さらに深い興味を持ち始めました。そして何よりも、新たな仲間をえることができました。来年もまた全国に行きたい。というより、必ず戻ってくる!。その決心を胸に、また経済、金融のことについて深く学んでいこうと思います。

最後になりましたが、水谷さん、鈴木さんはじめ、多くのスタッフの方々。地方大会も含め、すべてのライバル。ずっと一緒に戦ってきた、クイズ研究会の仲間。そしてなにより塩越。すべてのみなさんにお礼を申し上げます。ありがとうございました。

北海道大会代表：旭川東高校 塩越希さん

今回、僕は第三回エコノミクス甲子園に参加し、貴重な体験をすることが出来ました。その中で、僕が学んだこと、感じたことを書いていきたいと思います。

今回の大会への参加を決めたのは、元々経済学に少し興味を持っていたこと、また、面白そうだという単純な理由からでした。しかし、地区大会への参加を決めてから本格的に勉強をしていく中で、経済学はとても難しいけれど奥深く、面白い学問だと思いました。大会への対策として、協会の方から送られてきた教材に加え、最近の経済情勢などに関する本や経済用語辞典なども読みましたが、学習を進めていき、「100年に一度の大不況」「雇用不安」といった経済関連のニュースを見ると、その起こった原因やどのような改善策があるのか、といったことがよくわかるようになってきました。学習を始めるまでは、まだ高校生だから経済なんて自分には関係ないと思っていましたが、学習を通じて決して自分たち高校生とも切り離せないことなのだ実感しました。自分の保護者がいつ職を失うかもわかりませんし、また僕たちが就職した後もいつ不況が起こるか、予測できません。

また、現代の日本の経済には、多額の負債や税制問題、消費者マインドの低下といった問題が山積みです。僕たち高校生も、本気でどう行動すべきか、自分達に何ができるのかについて考えるべき時代が到来したのではないのでしょうか。

こんな時代だからこそ、「金融知力」が求められている—その中でこのような大会に参加できた僕たちは幸運だと思いました。

絶対ニューヨークに行くぞという意気込みで参加した今大会ですが、なんとか地区予選を突破したものの全国大会では敗れてしまい、目標を果たすことは出来ませんでした。しかし、勝ち負けよりも大会を通して学んだこと、かけがえのない友達ができただけで大きな財産です。

【大会1日目】

もんじゃ焼の店で個性の強い人たちと同席になり（出場者皆個性が強かったのですが）、緊張がほぐれてよかったです。浅草観光が問題のネタになるのでは、と思ってくまなくガイドさんの言う事を聞いていたのですが、一問も出ず残念でした。

貨幣博物館では写真でしか見たことのない貴重な貨幣の現物などを見ることができ、面白かったです。

夜のレセプションでは、ビンゴゲームなど楽しいアトラクションがいろいろあり、出場者は面白い人ばかりで、友達が沢山できました。その後突然始まったプレゼンクイズ、これが今回の大会で一番心に残ったイベントです。夜中まで必死にアイデアを出し合い、僕は少し眠ってしまったのですが、試行錯誤しながら協力し合ってビジネスを作り上げました。起業家の大変さが身にしみてわかったように思います。また、夜中まで自主クイズ大会をやって、くだらない話で盛り上がったこともいい思い出です。

【大会2日目】

朝から筆記クイズで、徹夜してまだ覚醒していない頭で答えるのはきつかったです。その後、六本木ヒルズに移動しての決勝戦ではいきなり〇×クイズが始まって驚きました。そしてプレゼンクイズでは、どのグループの発表も面白いアイデアを出していました。その後札勘クイズやトラストクイズ、会社経営クイズなどエコノミクス甲子園ならではの面白いクイズが続き、最後まで諦めずに戦いましたが、結局優勝することはできませんでした。最後の閉会式での野中さんのスピーチには感動しました。英語を交えた熱意あふれる語り口で、本気で僕たちに経済のことを知って欲しい、そんな気持ちがひしひしと伝わってきました。同時に、まだまだ経済のことを勉強しなければならないと思ったのです。

こうして2日間の熱闘は幕を下ろしましたが、僕は今もまだ経済の勉強を続けています。もっともっと経済のことを知りたい。来年も出場して、今度こそ絶対に優勝してニューヨークへ行きたい。そんな気持ちが僕の原動力です。

思えば、金融のことについて学校で教わったことはほとんどありませんでした。日本の教育にも現在の経済に関する問題の発端があるということを垣間見たように思います。現在の停滞した日本経済を打破するために、もっと沢山の人々に「金融知力」をつけて欲しいです。そのためにも、いつかは47都道府県全てで予選が開催されればいいなと思います。

最後に、金融知力普及協会のみなさん、スタッフのみなさん、そしてエコノミクス甲子園に関わったすべての皆さん、本当にありがとうございました。

秋田大会代表：秋田商業高校 土田隼毅さん・加藤光さん

私たちはこれまで、金融や経済学についての学習はほとんどしたことがなく、あまり興味や関心もありませんでした。しかし、学習を進めていくうちに、今となっては高校生でも金融経済に関する知力が必要になると痛感いたしました。

ちょうどその頃にエコノミクス甲子園について知り、参加しました。本大会では残念ながら入賞できなかったのですが、貨幣博物館を見学したことや、宋文洲さんの話を聞いたことなど、普段の生活では知りえなかった貴重な体験をすることができ、大会の結果以上のものを得ることができたと思います。中でも、一日目の夜から徹夜で行ったベンチャー企業のビジネスアイデアプレゼンの作成では単なる知識だけではなく、新しいビジネスを作るといことがいかに難しいか、また、チームワークというものがいかに大切かを知る大変貴重な体験になりました。

今回の大会で得た貴重な経験を、これからの生活、実社会に出てからの知力として発揮しようと思います。そして、これで学習を終わらせずにさらに金融に関する知識を身につけ、社会人として生きる力へと発展させていきたいです。

埼玉大会代表：浦和高校 安藤出海さん

東大寺の優勝が決まり、全日程を終えたときに一番はじめて思ったことは、「早く寝たい。」だった。

もともと私は、クイズ研究会に所属するいわゆるクイズ好きで、この大会に出た理由も、「クイズがしたいから」というこの大会の趣旨から見れば不純な動機なのである。配られた資料を読み込み本番に向かうと、あれよあれよで全国へ。

しかし、何を勉強すればいいのかすら分からない、そんな暗中模索の状態であった。一通り政治経済の資料集は読んで、とりあえずこんな感じで行くしかないだろうといった目測しかなかった。

しかし、全国大会で出されたクイズは普通のクイズの大会とは、一線を画したものだだった。寝ないでプレゼンの準備をした後、発表。お札を数えたりもした。

結果のほうは散々だったので何も言わないが、大会の感想をあげるとすれば……

『このエコノミクス甲子園はクイズ選手権ですよ！？』である。

結果論になってしまうのだが、実質的に第3ラウンドの「ビジネスアイデア・プレゼンクイズ」もとい単なる「アイデア・プレゼンテーション」の結果が、その後のすべてを支配していた。たまたま記録していたのでそれを引っ張り出すと、1位と4位の間には約100点差、3位との間も約70点差がついていた。実質の最終結果を見ても、優勝した東大寺をはじめとする上位8チームは7位の金沢大学付属を除き、すべてプレゼンで1位か2位のチームだけ、3位、4位のチームにいた人はほぼここで実質の失格となったようである。単なるクイズ勝負にしたくないという意向も分かるが、名目でもクイズ大会なのだからクイズを全面的にしてもらいたかった。

プレゼンといっても、ほとんどがアイデア勝負。現実味や収益性はあんまり評価されて無かったようであった。エンジェル（審査員）の方も、もっとアイデアに富んだものが欲しかったとおっしゃっていたほどで、これでは金融知力というよりネタ勝負の世界だったと思った。

しかし、この大会を通して得られたものはたくさんあると思う。ひとつは経済・金融特に、投資などといった金儲けに関する興味である。今の世の中は、いくらでも金儲けをしてよい。金儲けのためとっては何だが、さまざまな手段について知りたくなってきた。

また、貫徹したことで、一種の仲間意識が出てきた。ここで、遠く離れた仲間が出来たと思った。

再びエコノミクスに出て、今度は優勝したい。最後にこれだけはひとつ。

「もうプレゼンはやめてください!!!」

東京大会代表：開成高校 田村正資さん

この第三回エコノミクス甲子園に僕は「クイズ研究部」として参加しました。特に、経済とか金融に興味があるわけでもなく、ただ「クイズ大会だから」参加したのです。

クイ研の常識から言えば、大会の大半は「早押し」です。そして、僕はその常識を何も考えずに適用し、難問系知識のインプットしかやってこなかったのです。大会開催者の意図も理解せずに。（今思えば、このインプットですら中途半端だったわけですが。）

そして本番です。現在の経済の現状をとらえ、本質を問うてくるペーパー、○×、札勘論述、夜を徹してのプレゼン、唯一の早押しも連携の要素が問われる捻った形式。自分たちが普段クイ研としてやっている形式とは全く違います。その中で、「開成」という非常に重たい名前を背負いながらの醜態。

そして、決勝では結局当初の点差をほぼそのままにしての9位。このちょうど真ん中という順位も、自分たちの今回の大会への取り組みの中途半端さを表している気がします。

しかし、ここで「クイ研だから」とか言い訳をすればもちろん数多くの他のクイ研の方々に対して失礼ですし、そもそも「クイズ大会」と名のつく大会で負けたことに変わりはありません。そしてこのクイズ大会は、誰が博学か、よりたくさんの言葉を知っているかを確かめるものではなく、生き物のように変化する経済の本質を学ぶためのものです。（少なくとも私はそう捉えています。）

大会を終わってみて、経済に特別な湧いた、ということは正直ありません。ただ、言いようのない悔しさは残りました。だから、来年も「クイ研として」しかし、今年とは違った意味で、またここに来ようと思います。

まあ、色んなことを考えましたが、そんなことはともかくとして、この大会を通じて（特に徹夜のプレゼン）たくさんの楽しい仲間と出会うことができ（変わりに生活リズムがぶっ壊れましたが）、本当に参加できて良かったと思っています。

今年共に参加した皆さん、どんな形であれ来年も全国大会で会えることを楽しみにしています。（まず自分たちが一番頑張らないといけないのだけど。）

今回、このような機会を与えてくださった金融知力普及協会その他銀行関係の皆様、そして大会を共に盛り上げてくれた各地方代表の皆様に変感謝しています。（堅苦しいですけど。）

補足：上記の文で「醜態」と書きましたが、それは決して順位や勝ち負けの結果を言っているのではなく、大会前、大会中を通じての自分の行動を省みての表現です。自分の最善を尽くしての結果であれば、来年例えどんな結果になろうともそれを誇っていくつもりです。

東京大会代表：開成高校 横田昴之さん

僕は第三回エコノミクス甲子園に出場し、たくさんの人々と触れ合う中で、様々なことを学び、感じた。

まず、全国大会のレベルの高さに驚いた。最初の〇×クイズから他校に大きく引き離され、自分の勉強不足を痛感した。また、自分より遥かに高いレベルで戦っている他校の高校生達に、尊敬の念を抱いた。来年も、今年の反省を生かし、彼らと同じ土俵に立って戦えるよう努力したいと思う。

また、今大会で全国の色々な場所から集まった高校生と交流を持ち、貴重な経験をした。特に、徹夜で皆と考えたプレゼンクイズは、その時は大変だったが、今となってはいい思い出だ。また、大会終了後、六本木ヒルズのタワーで他校の高校生たちと語り合い、とても楽しい時間を過ごした。エコノミクス甲子園で戦う、という共通の経験を経て、出場した高校生皆の間に絆が生まれたからだと思う。

今回のエコノミクス甲子園での体験は、滅多に出来ないことであり、そのような体験をさせて下さった金融知力普及協会の方々にはとても感謝している。来年もこの大会に出場出来るよう、頑張りたいと思う。

神奈川大会代表：聖光学院高校 田口麻人さん

そもそも、私がこの大会に参加するきっかけとなったのは、政経の先生が「こんな大会があるよ。」と言って、ポスターを見せてくれたことでした。出場しようかどうか迷っているうちに先生が半ば強引に出場を決め、そのままの流れで予選に出場しました。

予選は横浜銀行の大会議室で行われたのですが、そこで一番感動したのものが、「早押しボタン」で、人生で初めて経験した早押しクイズはやっていてとても興奮したのを覚えています。大会自体はペアの祐一郎君が筆記で大活躍だったお蔭で優勝できました。今まで書いたようにすごく軽い気持ちで予選に出てしまったので、全国大会の最大の目標も、「楽しもう」ということでした。そんな全国大会でいい経験になったなと思ったのは、「プレゼンクイズ」でした。私はこのような取り組みをしたことがなかったので、一晩かけてさまざまな議論をしたり、他のチームの発表を聞いたりしたことは、体力的にはつらかったけど、新鮮な経験でした。大会自体の結果はあまり芳しくなく、応援して下さった横浜銀行の方には申し訳ありませんでしたが、自分自身の中では大会に出場してとてもいい経験になりました。

神奈川大会代表：聖光学院高校 小林祐一郎さん

疲れました。まず最初に言いたいのはこれです。隣の某は「これは金融知力ではなく金融体力だ」などと言っていました。私もこれがユーモラスに聞こえるほど疲れていたことは間違いありません。その原因はプレゼンにあり、などと言っても仕方がないのですが、今回プレゼンテーションをして感じたのは、経済や金融の知識はすぐに身についても、その現場で行われることというのは一朝一夕には身につかないということです。私が金融の世界に携わることは今後ないかもしれないかもしれませんが、今回の体験を大切にしたいと思っています。

しかし、それはともかくとして、全国から集まった高校生に会えたこと、また、金融の世界で活躍している方のお話を聞いたことなど、大変「為になった」と感じています。

特に、レセプションで話していただいた宋文洲さんと、閉会式で話していただいた野中ともよさんのお話はとても感動的でした。そのお二人が共通しておっしゃっていたことに、「人生はお金のためにあるのではない。自分が満足できる人生を送ることこそが大切だ。しかしまた、何かをしようと思ったときに道具としてのお金の知識は必要だ」といった旨のことがあったと記憶しています。私はこれに非常な感銘を受けました。

その上で言いたいことがあります。「金融知力」という言葉は、この理念を十分に表していないように思うのです。私は残念ながら思いつくものはありませんが、もしこの理念を含蓄するような言葉があるならば、それを使ってほしいと思う次第です。

富山大会代表：片山学園高校 守山涼太さん

楽しみにしていたエコノミクス甲子園。しかし、その道のりは険しかった。

出発前日は準備などがあり、朝4時まで起きていた。3時間睡眠でも飛行機は楽だから問題はないと思っていたが、雪の影響で飛ばなかった。急いで駅に行き電車に乗った。車内は人が多くまともに休めなかった。3時間の長旅の後浅草に着き、生まれてはじめてのもんじゃ焼きを食べた。おいしかった。

夜にはレセプションパーティがあり、衝撃の事実を聞かされた。4チーム合同でプレゼンを作り、発表をしなければならぬらしい。疲れていたが寝ることは出来なくなるらしい。10時から始まった話し合いは12時過ぎにアイデアが決まり、楽に終わるかと思ったがパワーポイントや細かい計算などにてこずり、結局終わったのは6時前になってしまった。しかしこの徹夜はとてもたのしく充実したものになった。来年は一泊増やしてこの作業をしたい。

その後はあたまがぼーっとしていて働かずに大変だった。

エコノミクス甲子園が始まった。第一ラウンドはあっという間に終わり、六本木ヒルズに移動になった。

第二ラウンドが終わり、第三ラウンドのプレゼンクイズが始まった。私たちは一番手だった。プレゼンはいいい感じに終わり、質問もキチンと返せた。手ごたえは良く上々のできだったと思う。他の班のプレゼンも終わり、結果が出た。私たちは一位だった。今までの苦勞が報われたと思った。第五ラウンドが終わり、決勝ラウンドとなった。このときは3位だったが、自力の差でずると順位を落とし最終的には6位だった。

こうして高1のエコノミクス甲子園が終わった。しかし目標であった6位になれたし、2つのラウンドで1位をとることができたので良かったと思う。来年はもっとパワーアップして、全国大会へ戻ってきたい。

富山大会代表：片山学園高校 浅和貴さん

東京に発つ日がやってきました。気分はとても高揚していました。外は辺り一面雪で覆われていました。空港につくと雪がたくさん降っていて、積もっていたので少し嫌な予感がしました。早々と荷物を預けて、飛行機に乗る準備を済ませても、東京から来るはずの飛行機がなかなかやってきました。そして、自分たちが乗るはずだった便は欠航し、新幹線で行くことになりました。初めに乗った特急が雪で遅れて、新幹線に乗るために、重い荷物を持って走りました。東京に着くまでには、もう疲れていて、寝たかったです。東京に着いてからの観光は大変でした。観光が終わり、オリンピックセンターに着きました。少し休憩があって、レセプションが始まりました。宋さんの話はとてもためになりました、その後のパーティーは立っただけで辛かったです。

そして、ゲームでビンゴが始まりルールを聞いたときは、相当びっくりしました。ビンゴが終わるまで、ただ自分の名前が引かれなことを祈っていました。前に出て芸をしている人を見て、感心しました。

パーティーが終わり、やっと休めると思うと、突然プレゼンを作れと言われました。それからチームで集まり、テーマを決めようと話し合いを始めるけれども、なかなか決まらずに時間が過ぎていき、やっと決まったときにはもう深夜でした。起きていてとても辛かったのを思い出します。そして、あまり寝ないで朝を向かえました。

朝食を食べ終わってまず、筆記問題が始まりました。問題の難易度も上がっていて、眠気がひどかったのであまり出来ませんでした。それから、バスに乗って六本木ヒルズに向かいました。会場に着いてから、続きのラウンドが始まり、〇×クイズの後にプレゼンがありました。前日からチームの仲間で徹夜して仕上げた成果が出る時でした。プレゼンをしている仲間を見て、自分もこれくらい上手く喋れたらなああと、思いました。次のラウンドは札勘をして問題に答えるというものでした。99枚のお札を数えろといわれ、相手と50枚ずつ数えようと決めました。そこで、偶然にも取ったお札の枚数がぴったり50枚取り、なぜか面白かったです。運良く1位で通り、問題も正解したので、よかったです。でも他の問題は全然分からなかったもので、それを答えているチームを見ると、驚きました。それからの2つのラウンドは、自分たちの知識がないことを痛感し、新聞からの情報の大切さを思い知りました。

途中は1位になっていたのに、結局その後だんだんと順位を下げていったのは、すごく悔しかったです。大会の最後の方の野中さんの話が強く心に残りました。その話を聞いて改めて、経済と言うのがどういうものなのかを知った気がしました。その後、六本木ヒルズの高いところから、東京を他のチームの人と見たのはとても楽しかったです。

エコノミクス甲子園に出て経済のことをよく知ったり、全国大会に出ているいろんな人と知り合えたことは、僕にとって一番の思い出となりました。これからも、経済の知識をもっと深めていきたいと思えし、来年もこの楽しい全国大会に出たいと思いました。そして、来年は経済についてもっと勉強して、エコノミクス甲子園に出たいと思います。

石川大会代表：金沢大学附属高校 萱原正崇さん

第二回、第三回と全国大会に出場させて頂いた石川代表の萱原です。両大会とも協会の方々、北國銀行の方々、その他関係者の方々のお世話になり大変感謝しております。

昨年一月、沖縄で全国レベルの高さを痛感した僕たちは「リベンジ」をするために今大会に応募しました。第二回大会では殆ど事前対策を行わず運のみで地区大会を突破、全国大会に出場することができました。しかしながら、全国大会では優勝した開成高校や準優勝のラ・サール高校の足元にも及ばず、10チーム中8位という結果に終わってしまいました。それ以来僕たちは「全国制覇」だけを考えて、第二回大会後に頂いた自作問題や用語集を片手に、結果的に本格的な対策を始めたのは12月に入ってからでしたが、勉強を始めました。

地区大会一週間前くらいからは前回地区チャンピオンとしてのプレッシャーにかなり悩まされました。二学期末テストが終わってからは常に経済の用語集や過去問とにらめっこしていたと思います。そこでの一夜漬けが功を制したのか、地区大会では筆記試験の出来の悪さに焦りを感じつつも早押しである程度満足いく結果を残すことができ、二年連続の全国大会出場が決まりました。

冬休みも用語集の徹底した復習や自作問題の作成に多くの時間を費やしました。出発前日までできる限りの対策を行いました。

しかしながら、またしても全国大会で勝利することができませんでした。

なぜ勝てなかったのか。それは僕たちが「金融知力」というものの本来の意味を取り違えていたからだと思います。今大会は時事知識やプレゼンテーション能力と言った、より実用的な能力が問われる大会でした。僕たちは用語集で重箱の隅をつつくような問題の対策を必死でしていました。それ以上に必要な知識に対する意識の希薄さこそが最大の敗因と言っても過言ではないでしょう。

現在、世界中で100年に一度と言われる大不況の嵐が猛威をふるっています。このような状況下であるからこそ、「金融知力」というものの重要性がよりいっそうわかるのではないのでしょうか。僕たちは二回の全国大会出場を経てやっと「金融知力とは何か」という最大の命題の答えにたどり着くことができました。エコノミクス甲子園は学校での勉強や日常生活では決して出会うことのない大切な経験を与えてくれました。この大会の存在は僕の人生に深く刻まれることでしょう。最後に、今後のエコノミクス甲子園のさらなる発展を祈るとともに感謝の気持ちを述べさせていただきます。本当にありがとうございました。

福井大会代表：高志高校 吉田英明さん

特に金融経済に興味は無かったのだが、現代社会の担任に勧誘され、参加したエコ甲。

…なるほど、大変な量の教材だ。勉強するつもりは失せし、全国大会を目指す気もない。適当に予選落ちして帰ろう。

そう思っていた。ら。——優勝していた。まさか、である。シーソーゲームの末に、優勝してしまったのだ。これは、困った。嬉しいが、困った。喜ぶ相方をよそに、一人複雑な心境であった。

帰って、考えた。そう、全国から猛者が集まってくるのだ。今度こそ、優勝はしないであろう。できないであろう。だが、万一優勝したら。…ニューヨークである。これは凄く、困る。東京よりも、困る。面倒である。とりわけニューヨークに行きたい訣ではない。ウォール街に興味がある訣でもない。

そうだ、辞退すればよいのだ。ああ、何故気付かなかったのだ。全国大会だって辞退すればよかったのだ。はた、と気付く。駄目だ。これは個人戦ではない。私には責任がある。そして、相方は友達だ。

「腹を据えた。頑張ろう。金融知力、つけておいて得はしても損はしない。」

と、過剰脚色ではないかというレベルまで脚色に脚色を重ねて参加に際しての心境を綴ってみた。ようは、睡眠をとらなかつた(とれなかつた)為当日の事があまりはっきりと記憶に残っていないのだ。書けぬ。しかし、野中ともよさんのスピーチだけは記憶にしっかりと残っている。自分が良くないと思った所は、周りが良しとしていても改善する。これを本当に実行できれば、素晴らしい。

肝心の大会はというと、終始己の無知を突きつけられた気分であった。眠気で今一つ機嫌が悪くなかったのもあるかもしれない。頭が回らなかつたのもあるかもしれないが、これは皆一緒だ。とにかく、勉強の量が足りない。金融経済の基礎さえ、怪しいのではないか。

課題が見つかった事は大きな収穫であった。しかし、それと同等以上の宝物と言えるものは、他の出場者との繋がりである。一緒にいて、楽しく、また非常に有意義であった。果たして、私は、同等の楽しさと意義を他の出場者に感じさせることができただろうか——。

このような機会を与えてくれた金融知力普及協会、エコ甲の出場を勧めてくれた坪田先生、そしてエコ甲に関わったすべての人に、最大の感謝を。

福井大会代表：高志高校 清水貴央さん

この大会に参加したことで、多くのものを得られたと思います。金融に関する知識や、友達ができてとても楽しめたという思い出などがたくさんありますが、その中で最も大きかったのは、全国レベルの人達と出会えたということです。

プレゼンテーション制作で、皆の話し合いについていけなかった自分がいました。クイズでも圧倒的な差によって負けてしまいました。「福井地区代表」になったことで長くなっていた自分の鼻がポキリと折れ、非常に恥ずかしい気持ちになりました。

今までどこか控えめだった自分のやる気に火がつかしました。圧倒的な学力の差を知り、このままではいけないと思いました。高校生活の三分の一が終了した今、やっと目が覚めたような気がします。

なんとなく参加したこの大会で、こんなに大きな収穫が得られるとは思っていませんでした。この大会出場を勧めてくれた先生、全国大会へと導いてくれた相方、仲良くしてくれた皆には大変感謝をしています。

本当にありがとうございました。

東海大会代表：名古屋大学附属高校 坂野慶太さん

全国大会からおよそ一週間が経ち、次回のエコノミクス甲子園に向けて、対策を始めたところです。今回の大会でたくさんの事を学びました。100年に1度の不況と呼ばれる現在、いかにファイナンスリテラシーが必要であるか、グローバル化し、複雑化していく金の流れなど、本当にたくさんのことを学びました。その点において、全国大会の札勘クイズ、プレゼンクイズはとても意義深いものだと思います。是非とも、次回も行っていきたいと思います。ただ、季節がら徹夜での作業は体への負担が大きく、できれば、地方大会からの宿題若しくは一日をかけて、というルールにしていきたいと思います。

ただ競技をするだけでなく、たくさんの方々の講演、挨拶はこの大会だけでなく、一生の教養として今後の高校生活に生かしていきたいと思っています。機会があれば起業家、エンジェルにお話を聞ければ、という気持ちが強くなりました。

大会自体も、自分たちの予想を大きく上回り、中間1位という結果や初出場1年で第四位と大健闘できたことは非常に喜ばしく感じております。が、これからはさらに上、全国優勝へ向けて全力で頑張っていきたいと存じます。

最後になりましたが、この大会は非常に意義深く、これからの日本を背負っていかなければならない、私たち高校生にとって必ず学ぶべき存在だと思っています。全国47都道府県からなる全国大会、各予選100チームという甲子園の名にふさわしい大会に成っていただきたいと強く思っており、私も全国大会ファイナリストとして、この大会の普及のお手伝いをさせていただければ、と思います。また、高校を卒業した後は、人的若しくは金銭的なお手伝いをさせて頂き、御恩返ししたいと存じている次第です。

主催者の皆様、協賛銀行、企業、この大会に関わった方々、そして何より一緒に徹夜してプレゼンを作った仲間、全国大会をともに戦った各地の代表の皆に感謝しています。本当にありがとうございました

東海大会代表：名古屋大学附属高校 向井康敬さん

まさか。と思いました。東海大会で、全国大会出場が決まった時のことです。私はめっきりの緊張しいで、その時私は、早押しボタンを押せるような状態ではありませんでした。その中、全ての問題に相方が答えてくれたことには、ただただ感謝するばかりでした。

私が今回エコノミクス甲子園に参加したのは、ただ「お金」のことを知りたかった、という理由です。「世の中全てカネだ」などと言われる中、この勉強をすれば将来役に立つかもしれない、という利己的な考えからでした。

しかし深く勉強すればするほど、単に「お金」のことを知るだけでなく、どうして「世の中全てカネ」とまで言われるようになったのか、また自分でなく社会に対する貢献としての「お金」の意味までも知るようになり、私の本来の目的からは大きく変わることとなりました。

今回の全国大会では、その意識がさらに深いものとなったと思います。突然出された「起業して云々」の課題について、本当は私は、ほとんど発言できませんでした。その時私は改めて、まだ自分の「金融知力」は足りていないのだ、と思いました。しかしまた、本当の「金融知力」は単に生活設計だけに有効なのではなく、もっとスケールを広げた、あるいは（言い過ぎかもしれませんが）全世界規模の事柄についても、十分取り扱い可能なのだ、ということに気づかされました。

そして何より一番の思い出となったのは、（相当クサイのですが）同じ「金融経済」を学んできた、たくさんの人たちとここで、めぐり合えたことでした。ここで受けた影響は、ただならぬものだったと認識しています。また来年度も、できれば出場したいと思います。ありがとうございました。

大阪大会代表：東大寺学園高校 田中聖也さん

今回、第三回エコノミクス甲子園に出場させていただいて、初めて感じたことがある。それは、神にもすがる気持ち、である。

中間発表の時、札勘のあと銀行の方にお札を数えてもらっている時……。手を合わせて天神様にお祈りしたこと、もう数えきれない。祈っていることを自分で認識していないこともあるだろう。なぜ天神様なのかというと、大会の5日前に、たまたま家族で北野天満宮へ初詣に行ったからである。別に優勝させてください、とあつかましいことを申し上げたのではない。

結果は一優勝。本当に嬉しかった。

後日、奈良の菅原天満宮へ行った。お礼を言い。

日本には八百万もの神様がいらっしゃるという。人間は一種類の動物にすぎない。

というようなことを考えていたら、一番感謝すべき人に思い当たった。相棒の中里である。彼は予選の前から大会の過去問を集め、印刷してくれた。本戦前には送られてきた教材をもとに問題を大量に自作してくれた。彼の多大の労力があってこそ、良い結果を勝ち得たのだと思う。

自分は自分だけで生きているのではない、ということを感じた。だから、ほんとうにしあわせ。

中国大会代表：岡山朝日高校 谷吉一樹さん

経済は私の命です。

は、僕が冗談のように色々な場面で言ってきた言葉です。中2から経済にかなりの興味がありました。

1年のとき、エコノミクス甲子園のことを知って、「これだ！」と思いました。経済大好きの僕が活躍するにはここしかないと思ったのです。それがきっかけで、全く経済に無関心の理系の富田君を誘って、出ることに。。

しかし、、、

1年、、、まさかの決勝早押し進出→惜しくも敗れる。これは結構へこみました。

そして、2年になり、今度は本気で勉強して、大大接戦の末、勝利しました。

そしてそして決勝大会。ここでも、ここでしかできない最高の出会いがありました。

1日目は、小旅行&レセプション。。。

貨幣博物館での皆さんの勉強ぶりには焦りましたが、割と楽しく1日目終了～！

と思いながらオリセンに帰り。。。

なんと昔からテレビで拝見していた宋文洲さんに会えて感動！宋文洲さんとも若干のお話ができてよかったです。

レセプションも、精鋭である皆さんの色々な面が見られてとても楽しかった！

明日に備えて寝よう～～～と思ってたら、まさかのプレゼン企画（___）

しかし、これが、とても楽しかった。みんなとても良い人だったし、徹底的に議論して、徹底的にプレゼンを作り上げた。

次の日に備えて30分ほど寝ました。

2日目は、決戦。。。

テンション↓↓↓のラジオ体操から始まった。

その後筆記をして、六本木ヒルズへ。。。

ヒルズを見る暇も無く、緊張の決戦。

プレゼンクイズ1位！

僕もきちんと貢献できたので、これはとてもうれしかった！

しかし、この後は、みな敵となり、、、

いよいよ、、、ラスト1問。

僕は一切分からなかったが、富田君が、結構自信をもって、回答。

西南、無回答。東大寺、コナーベーション。朝日、メガロポリス。

ここでメガロポリスなら僕達の勝利。。。。

結果、コナーベーション！！！！

人生こんなものだ。

高橋是清の問題ちゃんと時間内に出せてれば。。。

と、今でも悔しくなる。。。

しかし、ここでの体験、僕には、確実に忘れられないものとなった。

リアルに興味がない「経済」の僕にとっては、確実に有意義すぎるこの大会であった。

そして、今、僕は、また勉強ばかりの高校生活に戻っている。

エコノミクス甲子園で、最後に言った、「自分の企業を作って、エコノミクス甲子園の協力会社になる！」という夢を、絶対に叶えてやろうと思う。

この大会には、是非、全国各地の高校生に出てほしいのである。

香川大会代表：高松高校 小林大城さん

参加しようと思った経緯について

ニュースや新聞を見ていて昨年の9月ごろからリーマンショック(サブプライムローン)に始まる金融危機が、大きくとりあげられるようになっていました。しかしテレビや新聞からの情報だけでは本質が見えてこない(本当は自分の知識がなさすぎて何を言っているのかわからず頭のなかでもやもやとしていた)。だから自分で調べようと。しかしわからない用語(オプションとか先物取引とか、今では正確に理解できてはいるはず・・・)がたくさんでてきて困りました。ちょうどその時に友達から『エコノミクス甲子園』のことについて聞くことに。偶然過ぎるほどのベストタイミング、こうなったら金融の基礎から学んで、世の中でいま何が起きているのか本質を見極めようという気持ちが起り大会に参加することに決めました。そして運良く全国大会に出場できることになりました(レセプションでは、図書カードがもらえるからという不純な動機からだと言いましたが、本当はこんな感じです)

参加して良かったこと(得たもの)

とにかく、まだまだ勉強不足だということを実感しました。たくさんあるので3つに絞って書きたいと思います。まず、同年代の日本各地から集まった意識の高い方々と出会えたこと。みんなの意識の高さには驚かされました(企業してこの中で一番金持ちになるんだ、とか弁護士になるのが夢ですか)。自分には将来なりたいものがまだ決まっていないからでしょうか。これから模索していきたいです。

また、大人の方々からの話はためになるものばかりで中でも、宋さんの話、野中さんの話、プレゼンの講評、は強く印象に残っています。宋さんからはチャレンジ精神と自分の想定しないことが起こったときにどう対処するのかについて、野中さんからは視野をもっと広く日本だけでなく世界にむけようということとやはりチャレンジ精神について、そしてプレゼンの講評ではチームで力を合わせることに、それぞれから深いことを聞くことができました。プレゼンのときはほんとうに申し訳ありませんでした。さいごに、クイズで出題されたこと、これは金融知力普及協会が求める力や知識ですよね。これは社会が求める力や知識とほとんど同じとっていいのだらうとおもいます、そうに違いないです。こういうことを身をもって知ることができてほんとうによかったです。ほかにも東京に行けたり、スーツ着れたりと普段は体験できないことをできました。今起きている金融危機についてはすこしは理解できたと思っています。

この経験をどう生かすのか

とても価値のある経験をさせていただいたのですが、ほうっておくと風化していつてしまうので行動に移したいと思います。具体的に数項目ほど、ひとつめはこれからもつづけて金融・経済の勉強をすることです、やはりこれらのことは世の中のことを知る上で有用な道具になると思うからです。また仕事から稼ぎをえて自分でお金を扱うようになってからは特に役立つだろうと思います。2つめに、人に自分の考えを伝えるために文章を書いたり話したりする力をつけることです。ほんとうに拙い文章ですみません。プレゼンのときに、わかりやすく伝える力のなさをひしひしとかんじました。大人になってから何か本を出版するのが夢なのでそのためにも力をつけたいです。3つめはクイズ研究会みたいなもの作ります、何事もチャレンジですね。『みたいなもの』と書いたのにはわけがあって、クイズだけでなく様々なことを知るという活動をするための部をつくりたいからです。少し曖昧ですが、クイズは副次的なもので、クイズをとおして知識を深めるみたいなかんじです。クイ研で力をつけて第4回大会に参加するのもクイ研をつくる目的の一つです。もちろん開催しますよね?絶対につづけてほしいです。生きていくうえでこれほど役に立つクイズ大会はめったにないと思います。是非第4回大会を!自分は出場するためにも大学受験のための勉強を今まで以上に頑張ります。

最後にこの大会に自分が参加するにあたって大会を運営して下さったり支援して下さったりした方々におきましては、このような素晴らしい経験をさせていただき本当にありがとうございました。とても刺激のある経験ができました。このエコノミクス甲子園に参加して得たことを、糧にたくさんの方にチャレンジしていきたいです。

香川大会代表：高松高校 真鍋優さん

香川大会代表の高松高校、真鍋優です。

あっという間に過ぎていった2日間の全国大会でしたが、高松空港に着いた時は、「疲れた〜」っていう思いでいっぱいでした。

これまで高校生に参加資格のあるクイズ大会は1年の時からほぼすべて参加してきましたが、ことごとく地区大会で敗退し、全国大会には全く参加できませんでした。そして2年生11月の"第3回エコノミクス甲子園"、「来年は3年生だし、これが全国大会に行ける最後のチャンスかなあ」と思いながら挑んだ香川大会。相方に支えてもらい、見事全国大会出場が叶いました。

そして全国大会。ウィキペディアで出場校を見ると、どの地区からも進学校と呼ばれる強豪揃いで、改めて"エコノミクス甲子園"のレベルの高さをひしひしと感じました。1月25日まで、校内実力テスト、模試の合間を縫って、決して満足できる量まではいきませんでした。学校の公民科、百十四銀行さんの協力を得て、なんとか23日までできました。

1月24日(土)、前日は学校の授業、休み時間、塾の講義すべてを対策にあて、「経済」一色に染めました。9時35分高松空港を出発し、東京・羽田に着くと、すでにたくさんの代表が集まり、大会らしくなってきたと感じました。

バスにて一同浅草に向かい、昼食のもんじゃにてこずりました。(あれはあれでおいしかったけど、やっぱりお好み焼きかな…) 修学旅行定番の「浅草寺」を見て、貨幣博物館に移動しました。すぐ横には資料集でしか見たことのない「日本銀行」の姿があり、威厳さを感じました。東京の夕暮れは思ったより早いと感じつつ、宿舎である代々木オリンピックセンターに着きました。全国大会で以前そこを利用したヨット部のY田氏が、「あそこは寒くて何も無いぞ。」と言っていた通り、「ここは小学生のお泊まり会に使うところだろ！」っていう感じでした。是非次回はもっと環境の良い場所に泊まらせてあげてください。

18時30分からのレセプションパーティー。僕達はこの日のために新調したスーツを身にまとい、お互いにぎこちない感じで他校との交流を深めました。忘れもしない、この時でした。「ゆっくり寝られると思ったら、大間違いです。プレゼンをしてもらいます。」まさか中学校の時にやった総合的な学習がこんなところで発揮されるとは思ってもみませんでした。我々の班は25時を超えても、テーマが決まらず、疲労だけがたまっていきました。でもここで、その流れを切ったのが、相方小林でした。彼はくさらず、段階を踏んで議論を進めました。彼のリーダーシップは「素晴らしい。」の一言でした。高松高校の代表として、高高らしさが出ていたと思います。

1月25日(日)、「いよいよ決戦の朝！」とは思えないほどあたりは暗く、心身ともに疲れていました。「クイズ大会はこんなに過酷なのか？」朝食で一緒だった浦和高校も見ると疲れしていました。

8時30分、第1ラウンド、筆記試験が始まりました。地区大会の問題より明らかにレベルが上がっていて苦戦しました。結果も散々でした。

六本木ヒルズでの第2ラウンド(僕の担任は、場所が六本木ヒルズだと聞いただけで、「うまげなとこでしちやうて。(土佐なまりで)」と田舎丸出しな発言をしていました。この話で三者懇談が終わりました。)〇×はまあまあといったところでした。

第3ラウンド、プレゼン。80/200のプレゼン。でも相方のリーダーシップがなかったら、0点だったと思います。出来たことに満足。

第4ラウンド、札勘。これは練習してきたのに、1枚多かった。ラスト0分でなんとか合い、ここで50点問題に賭けました。第3ラウンド終了時で最下位だったので、勝負に出る以外ありませんでした。僕は個人的に時代背景を加えて、良い解答だと思いましたが、点にはなりませんでした。

第5ラウンド、持ち点20を減らしただけ・・・

(オグシオの点の半分くらいくれ～)

決勝ラウンド前までの点の発表、予想通り第3ラウンドから点が伸ばせず、最初の1ケタから他のチームとちがう。

決勝ラウンド、投資クイズ。正解ならプラス、不正解ならマイナス。うちはもしすべて間違えるようなことがあれば、数ターンで舞台から退場になるピンチでした。「最下位では香川に帰れない。」そんな気持ちで臨んだ最終ラウンド、ちょっとは一昨日までの詰め込みが役に立ったのか、首の皮一枚のところ踏ん張っていました。

15時30分終了。16チーム中14位……。全力を出したので、しょうがないか。こうして最初で最後の全国大会が終わりました。

これは26日(日)に書きましたが、今は人生で一番楽しくて、すばらしい出来事でした。最後に野中さんがおっしゃっていた「人生なんてギャグよ。」、全くその通り。10月の時にはあの場所に立っていることなんて自分自身、思っていなかったです。最後に全国大会に行けると思いませんでした。今は大会を支えてくださった金融知力普及協会、百十四銀行の谷本さん、同じ時間を共有できた相方小林に「ありがとう。」と言いたいです。

でも順位はきっと後輩が上げてくれると思っています。

P.S 東大寺学園のみなさん、優勝おめでとうございます。NY、楽しんできてください。

NHKのニュースにちゃっかり映っていたそうです。となりでよかったです。

愛媛大会代表：愛光高校 小林真さん

私は地方大会を運良く切り抜けて、全国大会に参加する事ができた。全国大会に参加した感想を述べようと思う。

1. 井の中の蛙、大海を知っているような、知らないような。

私は全国大会のレベルというものを全くつかんでいなかった。いや、完全につかめていなかったわけではない。漠然と高いことは私にも分かっていた。事前に各地方新聞等々でつかんだ情報では「優秀な学校」がくることも分かっていた。

それだけで、レベルが高いことは十分、分かっていた。

この予想は不幸にして裏切られなかった。移動中のバスの中で聞こえてくる会話の内容は、非常にレベルが高かった。出来ることならば、この予想が裏切られてほしいという重いが心の片隅にあったのだが。それは散り去った。

しかも、参加当日に東大寺の高2生が参加していることが発覚し。もはや、東京観光に来ただけと化したかと思った。

井の中の蛙は大海を知ってはいても、海水を泳ぐ準備はしていなかったのである。

2. 朱に交われれば、赤くなる。時もある。

私たちは大会中にいきなりプレゼンテーションを作らされた。(大会の得点に加味されるもの。)それは他校の生徒と数人のグループを作り、共同で作業するものであった。勿論、他校の生徒の金融知力のレベルの高さは折り紙つきである。それだけではなく、彼らは教養の高さ及び頭の切れも兼ね備えていた。同じグループの東大寺、高志、昭和薬科付属、どの学校もレベルが高かった。勿論、私は闘争意欲を失ったわけではない。であるから、このプレゼンテーション作りにも一所懸命参加したわけだ。

グループの人々と話し合い、共同で作っていった。このような人々と共同で作業をさせて頂くだけで非常に光栄であった。また、それだけで、私も幾分彼らに近づいたつもりになれたのである。

朱に交われれば、朱に近づく程度は出来るのかもしれない。

3. 総括

結局クイズそのものはプレゼンテーションで得たアドバンテージにもかかわらず、芳しくない結果に終わった。

私が、このクイズ大会で知ったことは己が無知だったことである。これほどの収穫を得ることはそうあるまい。来年こそは大海で泳ぐすべを身に着けてから参加したいものである。

九州大会代表：西南学院高校 縄田千明さん

エコノミクス甲子園 全国大会が終わり、早10日。いまでは眠気や疲労で大変だったことよりも『楽しかったなあ』という思いでいっぱいです。自分がこのような大会に出場するとは、思ってもみなかったので、高校生活の集大成としていい思い出ができたと思います。

大学受験も終わり時間を持て余していた高3の秋、政経の先生からこの大会のことを知らされました。なんとなく楽しそうだった上にNY旅行までいけるかもしれないという淡い期待を持って参加を決めました。それ以上に同じクラスによく政治について議論しあっていた未成さんという心強いパートナーがいたこともあります。

九州大会に向けて一緒に勉強を開始したのは3日前。焦って夜中まで経済用語とにらめっこしていました。九州大会当日はあまりの勉強不足のため、直前まで本当に参加しようか迷っていたぐらいです。運が良かったのか、九州大会を突破し、全国大会へ行くことが決まったときはとても驚きました。

冬休みが明け、本格的に相方の未成さんと勉強を始めました。毎日毎日2人で集まり、自作の問題集を作り、問題を出し合い、経済学の理解を深めていきました。もともとお互い政治経済が大好きなので、趣味の一部として経済を勉強することは全く苦になりませんでした。

全国大会の結果は皆さんご存知の通りですが、私はそれよりもエコノミクス甲子園全国大会を通して様々なものを得ることが出来、とても嬉しく思っています。まず、出場するまでは学校の政治経済レベルまでの知識しかなかったのが、今では父の経済書を楽しんで読めるようになりました。そして全国の優秀な高校生達と出会えたこと、これが一番大きい気がします。岡山朝日、片山学園、名大附属の8人で一晩かかって一つのプレゼンをつくり上げた達成感は忘れられません。みんな本当にお世話になりました！

高校生活最後に、また大学へ進学する前にエコノミクス甲子園全国大会に参加することが出来て本当に良かったです。自分ひとりで経済を学ぶのは億劫になりがちですが、クイズ形式なので楽しんで勉強することが出来ました。相方と夜遅くまで必死に勉強したのも良い思い出です。金融知力普及協会をはじめ、西日本シティ銀行の方々、そして各銀行の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて感謝を申し上げます。これからは何らかの形で協会に恩返しが出来たらいいなと思っています。

九州大会代表：西南学院高校 未成あゆみさん

まず、感想文を書くにあたって沢山の方々に先に感謝をしたいと思います。エコノミクス甲子園という素敵なイベントを開催してくれた鈴木さんや皆さん、手伝いをしてくれたというスタッフさんたちや、スポンサーの方々。東京に行くのに協力してくれた家族。学校の先生や友達の応援もありました。本当に感謝しています。

さて私はこの全国大会の2日間では、他のどんな2日間にも負けないような意味のある有意義な時間を過ごせたと思っています。

その理由はふたつあります。

まず最初に、このエコノミクス甲子園というイベントのおかげで私の経済に関する知識は格段と増え、意識も変わってきました。大会が終わった今でも、経済についてのニュースは深く読むようにしてみたり、知らない経済単語は調べる癖

がついています。これは、このエコノミクス甲子園に出場して変わったことであり、大きないい変化だと思っています。自分の将来に対する勉強にもなると同時に、この知らないものを調べていくという姿勢が私には足りない部分でもあったと思うので、自分への大きなプラスに繋がっていると感じます。

次に何より、全国に沢山の仲間が出来たということです。同じく経済について学ぶという意味での仲間でもあり、本当に信頼したり助け合える仲間だとも思っています。現在は仲間たちと、インターネットなどを利用して日々連絡を取り合っています。くだらない話もするし、経済について言い合ったり教えあうこともあります。福岡においてよ、案内するよと言ったりもするし、また東京へ行こうよという呼びかけもあります。こんな仲間が、全国に出来たことは普通じゃ経験できないことで、すごく嬉しく思っています。あの時一晩徹夜で支えながら眠い目をこすった皆が、将来またいつかどこかで集まれることを楽しみにしています。

――筆記クイズや早押しクイズ。この大会では様々な問題に挑戦していきました。

次のクイズは何なのだろう。開催側しか次のクイズの順序や、内容を知りません。何も知らない私たちは、クイズをとにかく来ては打ち返す！と必死に進めていきました。

ですがその中できつと誰もが苦しみ、皆がいい意味でも悪い意味でも記憶に残っているのがプレゼンバトルだったのではないでしょうか。夜にいきなり、一晩でビジネスアイデアを考えて完成させるようにと言われたこのプレゼン。大会で唯一の貴重な休憩時間である睡眠時間を、本当に一睡もせずホテルのシーツも使わぬまま完成させました。

その日に初めて知り合った顔ぶれとチームを組み、必死に頭をひねりアイデアを出す。自分の意見を押し通すだけでなく、共同作業であることを認識して意見を聞きあう。そんな作業は、大変でもありましたが本当に楽しいものでした。それと同時に私は、自分は人に意見を伝えるのが得意なのに、意見を聞くというのがとても下手なのだと初めて知りました。これは、今後の生活の中で改善すべきところだと、少し成長も出来たのではないかと思います。

作業の中では、全国には本当に、よく勉強している人や様々な考え方をしている同年代がいるのだと、少し驚きもしました。そして自分がいかに福岡の一つの高校の中で、小さく考えていたのだらうとも思いました。

プレゼンの中で、果たしてどうすれば採算が合うのか。一年目の利益で、初期費用もまかなえるのか。経済についての薄っぺらい知識しかない高校生では、何より収益の計算などが一番大変だったと思います。しかし、皆で必要なものなどを一個一個考えていき、稚拙ながらも利益が出るように作ることが出来ました。

本当にお互いの支え合いの連続で、相方が寝る人もいたし、敵チームもお互いに声を掛け合ったりしてでの完成となった一夜でした。

大人になればきっと、こんなプレゼン以上に無理な要求をされることも多くなるのでしょう。そう思うと、このプレゼンにいつか本当に感謝する日がくるのかもしれない、なんて思ってしまいました。

ここには全てを書ききれませんが、初日に全国から集まった皆で浅草を観光して回ったり、日本銀行横の貨幣博物館にいけたこともとても貴重な経験でした。また、テレビの密着取材などというもう二度とないだろうと思えるような経験もしました。

今ふと思い返してみると、心から楽しんだことばかりだったように思います。

こんなに素敵なエコノミクス甲子園。

私は残念ながら3年生なので、来年から参加することは出来ません。もっと早くこの大会を知っていれば、もっと参加できたかもしれないと悔しくも思います。しかしながら、この充実した大きな経験を是非、後輩たちにもさせたいと強く思います。もちろん来年も開催されるという、エコノミクス甲子園。出来るのなら何らかの形で、第1回優勝者の木原さんのお手伝いをしたいと思っています。もう一度出場するという、今年出会った仲間にも会えるかもしれません。こんな素敵な深いイベントは、他にはないのではないかと私は思っています。

何度も重ねるようですが、私はとても楽しかったですし本当にこのエコノミクス甲子園に感謝をしています。皆さん、本当にありがとうございました。

そして拙い文章でしたが、読んでいただきありがとうございました。

沖縄大会代表：昭和薬科大学附属高校 直正宗一郎さん

全国大会前日、羽田空港にマスコミの姿があり、初めて自分の背負っているものの重さを感じた。

「自分は沖縄大会の代表として来ているのだ」と。

飛行機に乗っているまでは、楽しく東京観光をして、当日はとにかく頑張ってみようと思っていたから猛反省だ。

しかし、東京観光は予想通り楽しかった。東京にはよく行くが、浅草、兜町などは通った事すらなかったので、とても良い勉強になった。

だが、プレゼンテーションの準備で、まさか普段通りに寝かせてもらえないとは思ってもしなかった。それでも結構寝ていた方なのだが、睡眠不足で、前日感じていたプレッシャーはどこかに飛んでいってしまった。おかげで思っていたよりも緊張せず、今思えば実力が発揮できた当日になったと思った。

しかし、優勝の壁は高かった。トラストクイズ。難問ぞろいで殆ど判らない。

だが大会者側の主張『解けないからと言って簡単にする事は出来ない。』には賛同できた。あくまでもこの大会は金融を学ぶための大会であるから、それもそうかもしれない。

そして全国大会の全ての日程が終わり結果は5位。ニューヨークには、手が届かなかったが、自分がやってきたことが全国に通用しただけでも、この大会に来た意義があると思った。

最後に、この大会を主催している金融知力普及協会、お世話になったみなさんにはとても感謝しています。これからも自分が進んでいる道を踏み外さずに進みたいと思います。

沖縄大会代表：昭和薬科大学附属高校 知念慧弥さん

1. 参加した理由、広がった知識

エコノミクス甲子園に参加しようと思ったのは、先輩が前に参加しており、面白そうだなという単純な気持ちだった。直正という政治や経済に強い興味を示す友人がいたのもインセンティブのひとつかもしれない。

Webフォームからエントリーするときは、一種の緊張感を持ったのを覚えている。結局沖縄予選は抵抗を感じることなく抜けられた。

ただ沖縄予選がこういったレベルであっても、全国大会はこうはいかないということは了承しているつもりだった。それからは、インターネットの新鮮な知識と本の体系的な理論解説を頭に入れながら、金融や経済などの、これまで学ぼうとも思わなかったような知識を学んだ。これまである程度のニュースは理解しているつもりであっても、金融や経済のニュースを読んだことはなかったが、勉強するにつれ金融や経済のニュースに目がひきつけられるようになった。

2. 東京で

同じ分野に関心を持つ人が集まると人間は友人を作りやすいと聞かすが、確かに友人はできたし、将来この分野で働く人間はもちろんのことながら別分野で活躍するであろう友人ともつながりができるのはよいことだろう。俗に言うコネと呼ばれるものだ。

いきなりグループで共同作業、というシチュエーションは大人になれば遭遇せざるを得ない光景だろう。そのような現実的スケジュールを、まさに寝たいと思っていた、まさに痛みが頭を締め付けていたそのときに組んでいただいたことは、エコノミクス甲子園開催者への感謝に値する。

久しぶりの大勢の前での発表もでき、新たな僕自身の問題点も明らかになったし、（それは大勢の前に出ると、やはり言うべき事柄を忘却してしまうというものであるが；実はこれはずっと前の僕と比較するとまだマシなほうだ）普段体験できないことをいろいろな意味で体験できたことは印象深い。

そして、最も印象に残ったのは野中氏のスピーチである。実は恥ずかしながら野中氏については何も知らず、改めて僕自身の狭い知識を詫びたくなるほどではあるが、いずれにせよ野中氏の熱あるスピーチは僕たちに情熱、そして疑問を投げかけるものだった。

3. 最後に

これから（数年間ではあるとは思うが）経済的な雲行きが不透明となりつつある今、さらに金融の力（まさに金融知力だろう）が必要になると考える。

僕はたぶん金融や経済とは無縁の職業に就くと思うが、それは金融について無知であっていい免罪符にはならない。

このエコノミクス甲子園を開催してくれ、僕たちに金融や経済の知識を学ぶ機会と、またその他数々の経験を提供してくださった関係者の方々はもちろんのこと、参加した仲間たちにも感謝をしたい。